



## 「フェイスング・ザ・ジャイアント」 評・前島常郎

あらすじ

グラント・テイラーは、シャイロー・クリスチャン・アカデミーのフットボール・チームのヘッドコーチ。彼の指導する「シャイロー・イーグルズ」は、過去6年間鳴かず飛ばずで、一度も優勝していない。負けゲームを見飽きた父兄たちの不満は、ヘッドコーチに向けられる。あからさまに首のすげ替えを求める者さえ出てきた。

そんな時、チームのスター選手がライバル校に転校してしまう。今期の結果も悲惨なことになるのは目に見えている。テイラーは、負けゲームから引き上げる選手たちを怒鳴りつけるだけで、突破口は見つかる兆しもない。

テイラーの妻のブルックは夫の味方だが、チームのふがいなさの他に、ふたりが意気消沈する理由がまだあった。夢にまで見るふたりの子どもが、なかなか授からないのだ。妻の促しに押し切られて検査を受けたテイラーは、自分に不妊の原因があると知らされる。

「どうして、何もかもうまくいかないんだ！」古い車はすぐに故障するし、家の排水は臭うし……

テイラーは、眠れない夜に、聖書を開いてひとり神の前に心を注ぎます。

「神はわれらの避け所、また力。苦しむとき、そこにある助け。そ

れゆえ、われらは恐れない」（詩篇46篇1〜2節）

「主イエスよ、助けて下さい。私は、恐れることに疲れ果てました。私に何かを与えて下さい。私に何かを見せて下さい」

シャイロー・クリスチャン・アカデミーには、生徒と教師たちのためにとりなしの祈りをしてくれるブリッジズという人がいた。彼が、テイラーのところに来て、聖書のことばから激励する。「見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、開いておいた」テイラーコーチ。あなたの使命はまだ終わっていません。神が植えてくださった場所で、花を咲かせてください」

テイラーコーチの指導が変わってきたのが、アシスタントコーチにも選手たちにも、徐々に明らかになっていく。夢でしかなかった州大会への出場が、まもなく現実のものになる……。

### お勧めする理由

だれもがいつかは、失敗や失望を経験する。本編の舞台は高校のフットボールチームだが、テイラーコーチのメッセージは、だれもが応用可能である。

「ゲームに勝つことが、君たちの最終目的ではない。優勝チームの名前など、数年経ったらみんな忘れる。トロフィーも、いつかは

ほこりにまみれてしまう。神に栄光を帰すこと、それがすべてだ。勝ったら神をたたえ、負けても神をたたえる。ベストを尽くしたら、あとはすべてを神にまかせよう」

実力はあるのに肝心なところでがんばりがきかないキャプテンのブロックや、体がきゃしゃで自信に欠ける転校生のデイビッドらが、テイラーの指導で頼もしいプレーヤーに変身を遂げていく。聖書の教えが、台詞にたびたび登場する。

ながびく不妊に気落ちしている妻にテイラーが聞く。「ブルック、たとえ子どもが与えられなくても、君は神さまを愛するかい？」と。

父親への態度が悪い生徒を見たテイラーコーチは、どんな親でも敬うべきことを優しく説ききかせる。

州大会決勝戦の夜、テイラーの学生時代の恩師がロッカールーム

に現れて、激励する。「聖書には、365回も『恐れるな』と書いてある」

本作品は、前回紹介した「ファイアー・ストーム」と同じく、米国ジョージア州アルバニーの一教会が制作した作品である。監督兼主演のアレックス・ケンドリックと脚本を書いた兄のステイブン・ケンドリックは、同教会の牧会チームのメンバーである。企画も制作も、教会員全員の祈りの中で、神の栄光を表すことを目標に進められた。出演者たちはみな、手弁当で演技したという。フットボールのルールは分からなくても、十分に楽しめます。

\*本評を書くために、以下のサイトを参考にしました。http://www.pluggedin.com/videos/2006/q4/FacingtheGiants.aspx



## 「フェイスング・ザ・ジャイアント」

原題◆Facing the Giants

制作国◆2006年 アメリカ

制作・脚本◆スティブン・ケンドリック

監督◆アレックス・ケンドリック

出演◆アレックス・ケンドリック、シャネン・フィールズ他

上映時間◆111分

発売元◆ソニー・ピクチャーズ・エンターテインメント

国内未公開作品 DVD